

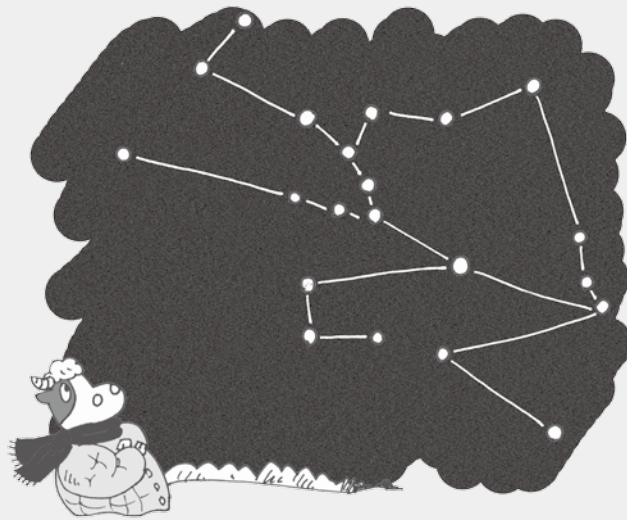


星座に考える 「ウシの気質」

ちょっと聞いてよ!

JA西日本くみあい飼料株式会社中国支店 獣医師 中尾 継幸(なかお つぐゆき)氏

気温が下がり空気が澄み渡る厳冬の季節、晴れた夜には満天の星が美しく輝いて見えます。今の時期、私たちが仕事柄その名に親近感を覚える星座のひとつ「おうし座」が午後八時頃にほぼ真南の空に位置します。日本でも「すばる」と呼ばれる有名なプレアデス星団を含み、形も整っているため見つけ易く、昔から多くの人々に親しまれている星座です。



この「おうし座」、ギリシャ神話では、大神ゼウスが一目惚れしたフェニキア王女・エウロペを連れ去るために変身した、優雅で純白の牡牛(おうし)だと思われています。天上から降りたゼウスの化身の牡牛は、野原で遊ぶエウロペの傍にそつとうずくまりました。驚いたエウロペでしたが、その牛の美しさに惹かれて歩み寄り、恐る恐る角や背中に触れてみました。しかし牛は穏やかに

に横たわったまま彼女を見つめていました。これに心を許したエウロペはついに牛の背中にまたがりました。その途端、牛はその瞬間を待っていたかのよう突然走り出したのです。海を渡りクレタ島へと辿り着くと、ゼウスはよくやく正体を現してエウロペに求婚し、エウロペはこれを受け入れ、その後三人の子供をもうけます。この時にゼウスの化身である牡牛の姿が星となって「おうし座」が誕生したとのこと。

ところでゼウスの化身であったこの牛は、エウロペが心を開くまで『穏やかに』じっと待っていたわけですが、この「穏やかに」は酪農においても、育種的に重要な乳牛の気質条件だと考えられています。搾乳作業に支障をきたさない穏やかな乳牛は、労働に対する生産効率向上のために不可欠であり、搾乳気質

は収益性にも影響することが知られています。玉川大学の研究では、搾乳気質に農場の飼養規模との関連性は無いものの、特定の種雄牛を父に持ち、経産牛で社会的に中庸、繫留時間が短い状況下で飼養された乳牛はおとなしく搾乳される傾向にあるといえます。また人間との心理的関係形成に関する学習要因や心理的ストレス要因が搾乳気質に影響を与えることもこの研究で述べられています。

占星術での「おうし座」の項では「普段は温厚だが、ひとたび感情が剥き出しになった時の強引さが周囲を慌てさせる」との一文が載っていました。この内容は人間に対する占いも然る事ながら、不快な搾乳に対して肢を上げてミルカーを嫌い蹴落とすといった、普段は温厚な気性ながらも、急に感情的な振る舞いに豹変する時のような乳牛の行動を示しているようにも感じ取れます。古代ギリシャ人は牛のこのような気質を、感情豊かなゼウスの化身に見立てて神話に残したのかもしれない。そのような太古の人々の牛に対する思いも想像しながら、時には冬の美しく澄んだ星空を眺めてみてはいかがでしょうか。